



信州*岡谷

—SHINSHU OKAYA—

かつて世界一位の生糸生産地

シルク岡谷の絹遺産

（近代化産業遺産群）



お問い合わせ

市立岡谷蚕糸博物館 TEL 0266-23-3489

近代化 産業遺産群



岡谷市では、市内の製糸にかかわる15件の産業遺産が、『「上州から信州そして全国へ」近代製糸業発展の歩みを物語る富岡製糸場などの近代化産業遺産群』として平成19年に経済産業省より認定されました。



常時見学可

① 鶴峰公園

初代片倉兼太郎は製糸工場で働く低年齢の従業員への教育が必要と感じ、大正6年ここに私立片倉尋常小学校を開校した。後にツツジが植えられ、現在では、中部日本有数のツツジの名所として知られている。



外観のみ見学可

② 旧片倉組事務所

明治43年に建築された大製糸会社片倉組の事務所。初代、二代片倉兼太郎の活躍の拠点となる。現在は片倉工業株式会社の印刷部を継承した中央印刷株式会社の事務所として使用されている。国登録有形文化財。



③ 旧林家住宅

一山力林製糸所の初代林国蔵の住宅。主屋と離れの座敷、茶室、洋館に分かれ、主屋の南側には繭倉庫の形式をとどめる土蔵が並ぶ。「幻の金唐革紙」と呼ばれる壁紙が貼り巡らされている和室は一見の価値あり。国指定重要文化財。

※入館料 おとな570円 こども260円
※休館日 毎週水曜日と祝日・振替休日の翌日。
※開館時間 9:00~16:30

お問い合わせ 旧林家住宅 0266-22-2330



常時見学可

④ 成田公園

大正6年、昭和天皇の立太子の記念に造られる。製糸工場の従業員の慰安の地として利用された。製糸業発展に大きく貢献した第十九銀行頭取黒沢鷹次郎の銅像がある。



外観のみ見学可

⑤ 丸山タンク

大正3年に市内塚間川の西方一帯の製糸工場への給水のために建設された。天竜川にポンプを設置し、導管により水を揚げた。現在は、丘の上に三重円筒型(壁の厚さ約61cm)の巨大なレンガ積が残されている。



外観のみ見学可

⑥ 旧山一林組製糸事務所・守衛所

明治12年に創業した山一林組の事務所。建築は大正10年。山一林組は昭和5年に当地方第4位の製糸会社に発展する。製糸全盛期をしのぶ数少ない建物。戦前の日本における製糸労働者最大の争議である「山一争議」の舞台になったことでも有名。国登録有形文化財。



外観のみ見学可

⑦ 株式会社 村上繭倉庫

岡谷に残る数少ない繭倉庫。建築年代は明治期と推定される。旧サスダイ中村村助製糸所の繭倉庫であったが、現在は、株式会社 村上が譲り受け、倉庫として大切に使用されている。



外観のみ見学可

⑧ 蚕霊供養塔

岡谷の製糸業関係者が、蚕糸業の発展を祈念するために昭和9年に照光寺に建立した供養塔。世界的不況の時代に、製糸業関係者18人が発起人となり、村民や工女さんなど数万人から寄付を集め、犠牲になった蚕の霊を慰めた。木造馬鳴菩薩坐像を本尊とし、毎年4月29日には蚕霊供養塔例祭が行われる。岡谷市指定文化財。



外観のみ見学可

⑨ 旧岡谷水道集水溝

岡谷の製糸業の最盛期に、飲料水や工業用水の需要が増え、また衛生面からも上下水道建設の要望が高まったことから造られた集水溝。昭和63年まで利用されていた。ものづくりのまち岡谷の人々の生活を支えた集水溝として保存されている。国登録有形文化財。



※入館料 一般500円 中高生300円 小学生150円
※休館日 12月29日~1月3日 毎週水曜日、祝日の翌日
※開館時間 9:00~17:00

お問い合わせ 市立岡谷蚕糸博物館 0266-23-3489

⑩ 市立岡谷蚕糸博物館所蔵資料

昭和39年に開館し、日本製糸業近代化を担った歴史と精神を伝える製糸経営資料、写真資料や岡谷市鳥瞰図など30,000点を超える資料を収蔵している。国内に唯一現存するフランス式繰糸機や、明治初期に岡谷の武居代次郎が考案した諏訪式繰糸機などが展示されている。



外観のみ見学可

⑪ 旧岡谷市役所庁舎

製糸家の尾澤福太郎が昭和11年に岡谷市制施行を記念して寄贈した庁舎。昭和62年まで市役所として使用され、現在は岡谷市消防庁舎として使用されている。昭和11年の建築。国登録有形文化財。

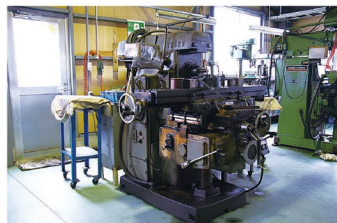


※入館料 一般500円 中高生300円 小学生150円
※休館日 12月29日~1月3日 毎週水曜日、祝日の翌日
※開館時間 9:00~17:00

お問い合わせ 市立岡谷蚕糸博物館 0266-23-3489

⑫ 旧蚕糸試験場所蔵機械等

昭和22年、農林省蚕糸試験場岡谷製糸試験所として設置され、日本における製糸技術研究の重要な拠点となった。自動繰糸機を中心に、繭乾燥から製糸まで一連の生産機械が残され、多条繰糸機等が認定を受けている。



社屋の外観のみ見学可

⑬ 増澤工業株式会社所蔵機械(横フライス盤)

明治29年に創業した日本に残る数少ない製糸機械メーカー。特に昭和5年から販売した「増澤式多条繰糸機」は日本一のシェアを誇った。こうした製糸機械を生み出した切削用機械「横フライス盤」が認定を受けている。



外観のみ見学可

⑭ 旧山上宮坂製糸所

事務所・工場棟・再繰工場棟・居宅。創業は明治7年、座繰り製糸にはじまり、大正~昭和の全盛期と戦後の復活期に中規模の製糸工場として発展した。同敷地内には昭和2年に建築された事務所を始め、一連の工場体系が残されている。



外観のみ見学可

⑮ 丸中宮坂製糸所繭倉庫

昭和3年に創業し、明治から昭和にかけて使われていた諏訪式繰糸機を現在も稼働させている全国で唯一の製糸工場。現在も繭の保管の目的で使用されている繭倉庫が認定を受けている。

公開施設情報

◆ 市立岡谷蚕糸博物館

製糸業やカイコに関する資料の展示があります。
入館料 一般500円 中高生300円 小学生150円
開館時間 9:00~17:00
休館日 毎週水曜日、祝日の翌日、12月29日~1月3日

◆ 旧林家住宅

製糸会社社長の林国蔵の居宅。解説付の見学ができます。
入館料 おとな570円 こども260円
開館時間 9:00~16:30
休館日 毎週水曜日と祝日・振替休日の翌日。

◆ 旧山一林組製糸事務所

岡谷絹工房(1階) 岡谷絹の絹織りの見学・体験ができる工房。各種絹製品も販売しています。
体験料金 2,000円(約60分)
開催時間 毎週 火・土・日 9:00~16:00

あるき太郎と探るシルク岡谷

岡谷市は、日本のほぼ中央、天竜川の源流諏訪湖の出口にあり古くから文物交流の接点として栄えました。そして明治以降、豊富な水や乾燥した気候などの恵まれた自然環境と、人々の努力と工夫によって製糸業が飛躍的に発展したまちです。



A 小口薬師堂から東に伸びる通りは工女でにぎわう繁華街だった。写真はだるま祭り。



B かつての郵便局。その後建物が利用された旧市立図書館といえば、市民に懐かしい。



岡谷には銀行の支店が軒を並べていた。
C 安田銀行(左) **D** 八十二銀行(右)、どちらも立派な構え。



E 吉田館の繭倉庫は高層の5階建て。製糸の発展を物語る風景や匂いは、人々の記憶のなかに残る。



F 諏訪倉庫資料より往時の塚間倉庫群。



G 市制施行に沸く駅前広場。昭和11年。



H 中央通りのまんなか。イルフプラザの北口に立つと、当時の風景と比べることができる。



I 平野製糸共同病院(現市立岡谷病院) 明治42年に製糸業者が共同出資して従業員やその家族の診療を主とする病院を作った。こうした例は全国的にも早かった。



J 諏訪蚕糸学校(現岡谷工業高等学校) 岡谷の中等教育は明治45年の平野農蚕学校から始まった。後に蚕糸業の発展と衰退を背景に学校名と履修学科を変化させ、現在も岡谷の産業・教育を支えている。

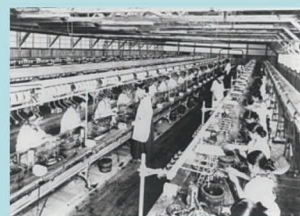
岡谷市と製糸業の歴史

1859年に横浜が開港し、外国との貿易が始まると日本の生糸は輸出品の花形として注目されます。明治政府は、製糸業の発展によって、殖産興業を推し進め、日本の近代化を図るため、フランスなどから洋式技術を導入します。

岡谷でも機械製糸による生糸の生産を志す製糸家が登場します。中山社を創業した武居代次郎らの活躍によってヨーロッパの技術をコストダウンし実用化した諏訪式繰糸機が明治8年に開発され、この後に工場生産体制が整えられていきます。

明治42年には日本は世界一の生糸生産国となり、生糸は輸出品のほぼ半分を占めるに至ります。県外に進出して経営を拡大する製糸家が続々と登場し、岡谷の製糸業は全盛を迎え、外貨獲得に貢献する生糸輸出の中核的役割を担ったのです。

製糸業の発展は、鉄道の開通や、交通、郵便、電信・電話の整備、電気の普及、病院の設置、教育など、岡谷のまちの発展と、岡谷の人々のくらしの向上にも大きく貢献しました。現在は、全盛を極めた岡谷の製糸も当時の面影を伝える街なみは少なくなりましたが、日本の近代化を支えたという岡谷の製糸業の誇りが今もなお受け継がれています。また市内に残されている製糸業の発展を物語る遺産は大切に保存されています。



製糸工場の繰糸風景



天竜河畔の製糸工場

製糸工場の仕事 ～まゆから生糸になるまで～

繭の搬入→	乾繭→	繭の貯蔵→	生糸づくり→	仕上げ・出荷
生繭(カイコの蛹)が生きています。状態で運ばれます。	長期間、繭を保存するために乾燥して蛹を殺し、発蛾を抑えます。	カビや害虫の被害にあわないよう保存します。	繭を煮て、糸を挽きだし、生糸にします。	できた生糸の製品を束ねて出荷します。



1 つるみね保育園



K 天竜川から岡谷駅南側にかけての工場群。



L 山共岡谷製糸の選繭場 良質な原料繭を確保することが、製糸業にとっては重要であった。製糸家たちは明治期から県外へ原料繭を求めて進出していった。写真は工女一人一人の手によって繭を選び分けている様子。



M 岡谷座 御倉町に明治43年創立。岡谷地方の劇場としては最も早い。宝座、三沢座などとともに製糸従業員娯楽施設として人気を博した。



N 中央通り・今井新道

このパンフレットに使われている絵は、あるき太郎 武井武雄画断第1巻(昭和2年)。岡谷市出身の画家 武井武雄の作品。あるき太郎は汽車や船、自動車などに乗って旅を続けるが、最後は、体のために歩くことにする。様々な登場人物と出会い、旅をすることで歩くのが速くなり強くなれたと喜ぶ。

イルフ童画館 開館時間 10:00~19:00 休館日 水曜日 TEL: 0266-24-3319